

福岡大学病院 脳神経外科 卒後臨床研修プログラム

【概要】

教室では、脳神経外科専門医の資格取得および高度な専門性をもつ脳神経外科専門医育成を目標としています。初期臨床研修において全身状態の把握、外科としての基礎知識、脳・脊髄の病態生理、初期対応のみでなく、病める患者、家族への対応など基本的な医師としての心構えを身につける教育をします。卒後臨床研修修了後の後期臨床研修では、脳神経外科専門医としての知識と技術の習得を目標に臨床教育を行います。緊急性を要する脳血管障害、頭部外傷も当院救命救急センターと協力し、積極的に三次救急患者を受け入れ、プライマリーケア（救急患者の初期治療）を研修します。

井上 亨教授が提唱する大学型脳卒中教育も更に充実し、新たな脳卒中専門内科医スタッフが加わり Stroke Care Unit (SCU)に欠かせない存在となりました。更に脳卒中専門看護師が誕生し、SCU 専属の理学療法士 (PT)、作業療法士 (OT) が追加されたことで充実した治療を提供できる施設へとステップアップしました。これで日本脳神経外科学会専門医、日本脳血管内治療学会脳血管内治療専門医、日本脳卒中学会専門医、日本医学放射線学会放射線科専門医、日本救急医学会救急科専門医、脳卒中リハビリテーション看護師、SCU 専属理学療法・作業療法士が揃ったチーム医療を患者さんに提供できるような体制ができあがりました。具体的には、一刻を争う t-PA 投与による超急性期血栓溶解療法を行う脳梗塞診断では、神経超音波検査が 365 日 24 時間可能となりました。迅速な治療指針、責任病巣血管の確定が求められる脳卒中救急の現場では重要な役割を担っています。当施設では超急性期血栓溶解療法の適応から除外された症例はマイクロカテーテルを使用する脳血管内治療を積極的に行い、必要に応じて血行再建のためにバイパス術を選択し複合的治療を行うことも可能です。治療困難症例に対しても常時、最先端の医療技術を集約させ諦めることなく治療しています。この充実した医療環境は、医学教育の面でも他大学に自慢できるようになりました。

当科の関連施設・病院は福岡県内に福岡赤十字病院、福岡市民病院、福岡東医療センター、白十字病院、福岡山王病院、県外に佐世保中央病院、済生会唐津病院、沖縄県立宮古病院などの大きな病院が多く、各病院との連携を元に地域医療機関との密接な関係を構築しています。定期的なカンファレンスを開催し提携病院との症例の情報意見交換をすることで患者さんその家族が安心できる地域密着の医療を心がけています。若手医師または学生教育の分野では、手羽先を用いた顕微鏡下の血管吻合の体験実習や人体脳血管模型を用いたシミュレーションシステムでの脳血管内治療カテーテル実習、人工モデルを使用しての神経内視鏡の基本的手技のトレーニングにも熱心に取り組んでいます。また当科は女性医師が活躍できる働きやすい職場環境を整え、特徴ある臨床コースも備えています。『太く・短く・かっこ良く』をスローガンとして井上教授を中心にチーム一丸となり、日々努力しています。

【当科の医療安全等に係る研修医教育】

月～金 7:30～8:30 毎日

受け持ち症例のプレゼンテーションをして、スタッフおよび各担当指導医を中心に教育・指導を行います。

月 1回 医療安全教育 インシデント報告を中心に具体的に行っています。

(水)

福岡大学医学部脳神経外科公式ホームページ

<http://www.med.fukuoka-u.ac.jp/neurosurg/index.html>